

令和4年度(第12期)事業計画

(令和3年10月1日～令和4年9月30日)

公益財団法人松下社会科学振興財団は、平成22年9月22日に京都府より財団法人から公益財団法人への移行の認定書を受理し、今年度は第12期を迎えます。

平成6年に松下幸之助生誕100年を記念して開設された「松下資料館」の管理と運営を活動の主体としております。

令和2年2月までは、松下資料館の来館者数は順調に増加してまいりましたが、それ以降、新型コロナウイルスの感染拡大により松下資料館は何度も休館を余儀なくされ、第11期にあたる令和3年度の来館者数は約1,100名となり例年(約9,000名)と比較して大幅減になる見通しです。内訳としましては、海外からの来館者はほぼ0となり、すべて国内からの来館者となる見通しです。

また、新型コロナウイルスの影響により、教養講座2件の中止、例年10件以上あった講演は2件にとどまりました。

令和4年度は、新型コロナウイルスの感染が収束に向かうことにより、国内外からの来館者が回復してくると思われれます。従いまして好評いただいております講話の回数も増加に転じるとともに、教養講座も今年度は2回開催できる予定です。また新入社員合同学びの会も引き続き実施してまいります。こうした講話室の使用頻度の増加に伴い、従来大型テレビ使用の映像システムからプロジェクター使用の新しい映像システムの導入を図ってまいります。

さらに、コロナ禍により新たに取組んでまいりましたオンラインによる講話・講演も引き続き対応してまいります。

又、図書館事業としては、お客様サービスをより一層充実するために導入予定の図書管理システムにより、将来を見据えた新しい蔵書検索や管理ができるようスムーズな運用を図ってまいります。

一方、本年度の金融情勢につきましては、新型コロナウイルス感染症による影響の長期化を背景に不確実性が依然高い世界経済環境下にあつて、金融不安も高まり為替及び株価の変動が大きくなることが予測されます。

為替及び株価に連動した仕組債の利金収入を主たる財源としている当財団にとりましては、為替・株価の動向を注視しながら合わせて講話料・講演料収入等の増収を図ってまいります。さらにコストの削減等の効率的な運営により経営の良化に努めてまいります。

< I 経営研究事業 >

松下資料館は多目的な“研究の場”として、松下哲学の勉強会や日本的経営を中心とした研究会などを随時行なっております。それぞれ研究成果を本や研究レポートにまとめて発表してきました。



1、教養講座の実施

研究事業の一環として、令和3年度に予定していた実施できなかった教養講座を、今年度、改めて実施いたします。

教養講座とは、豊かで幸せな社会を創るために役立つ考え方・知識・情報等を教養として学ぶ少人数制の公開講座です。

< 教養講座の企画コンセプト >

- 松下幸之助哲学に学ぶ
- 京都府管轄の公益財団法人として、京都の産業・文化に学ぶ

● 年2回 実施内容

○ (第3回) 令和4年2月予定

講演テーマ「松下幸之助の生き方に学ぶ～松下幸之助とともに39年～」

佐藤悌二郎氏

(株) PHP研究所 客員、(公財) 松下社会科学振興財団 評議員

○ (第4回) 令和4年8月予定

講演テーマ：「幕末維新と京都」

木村幸比古氏

(公財) 霊山顕彰会 霊山歴史館 元副館長

2、出張講演会の実施促進

松下幸之助をリスペクトしているが、諸事情により来館できないケースに対応して、出張講演会の提案を行ってまいります。

(ニーズ例)

- 企業・団体のイベント等の一環として実施
- 仕入先・業者さん・業界団体等の勉強会・研修会として
- 社員教育や組合研修の一つの講座として

(過去の実績)・2019年度16回、2020年度7回、2021年度2回

3、オンライン講話の実施

諸般の事情で松下資料館での講話を聴きに行けないといった要望にお応えし、ZOOM等を使用したオンラインによる講話の依頼を、積極的に受けてまいります。

(ニーズ例)

- 遠方のためなかなか行けない
- 社内や関連団体のメンバーを一同に集めて来館するのが難しい
- 大人数のお客様を連れて行きたいが受入れ可能人数を超えてしまう
- 新型コロナウイルスのために団体として来館できない

(過去の実績)

- ・ 2020年度3回、2021年度7回

< II 展示事業 >

展示コーナーでは、グラフィックパネルを用いて、松下幸之助の“行き方・考え方”を紹介しております。さらに映像ブースでは、松下幸之助とその教えを受けた人々の映像を日本語、英語、中国語、韓国語の4ヶ国語で視聴することができます。



1、講話室に新しい映像システムを導入

講話・教養講座・講演で使用している講話室のテレビが古くなったため、プロジェクターを導入した映像システムに変更する。

- 大画面のプロジェクターシステム
- DVD・パソコン対応
- 音響システムの変更

2、第9回「新入社員 合同学びの会」の実施

4月に実施。中堅企業・公共団体の新社会人に向けて、松下幸之助の仕事観・人生観を講話や映像視聴等で学んでいただく会です。

3、関連先との連携強化

松下資料館との関係の深い企業・団体（パナソニック、PHP 研究所、松下政経塾、SMBC 日興証券 等）との連携を強化し、松下幸之助哲学の普及とファンづくりを行なってまいります。

- (例)
- お得意先との関係強化の一環として
 - セミナーや研修会の講座の一つとして利用
 - 新卒者向けの会社・入塾説明会の一環として利用
 - 学生へのインターンシップの一環として利用

<Ⅲ 経営図書館事業>

経営図書館では、現代経営に役立つ図書館を目標に、その関連資料を収集しております。松下幸之助がこれまでどのようなことを言ってきたかを知りたいとき、日本的経営の源流を知りたいとき、あるいは経営者の経営理念をじっくり研究したいときなど、経営、ビジネスの面から幅広く活用することができます。



1、新しい図書管理システムの運用

令和4年度に導入予定の新しい図書管理システムのスムーズな運用を通して、将来を見据えた管理をしっかりと行なってまいります。

- 運用ソフトのカスタマイズ化

2、経営者執筆本・会社社史の充実化

経営者執筆本・会社社史の蔵書といった全国的にも特徴のある図書館として、さらに充実化を図ってまいります。

- ホームページでの継続的な寄贈の呼びかけ
- 社史編纂請負会社への寄贈依頼
- 来館された企業幹部への声かけ

・ 令和3年7月末現在 蔵書数

全蔵書数	21,424冊
(内) 経営者執筆本	1,272冊
会社社史	3,549冊 (2,238団体)